

2008年3月期(第75期)
中間決算説明会

Humanity and Technology
株式会社ユニバンス

2007年 12月 13日

<http://www.uvc.co.jp/>

目 次

I. 2008年3月期中間決算概要

II. 2008年3月期業績予想と
中期経営目標達成に向けた活動状況

代表取締役 社長執行役員 鈴木 一和雄



I. 2008年3月期中間決算概要

I. 2008年3月期中間決算概要



連結対象子会社

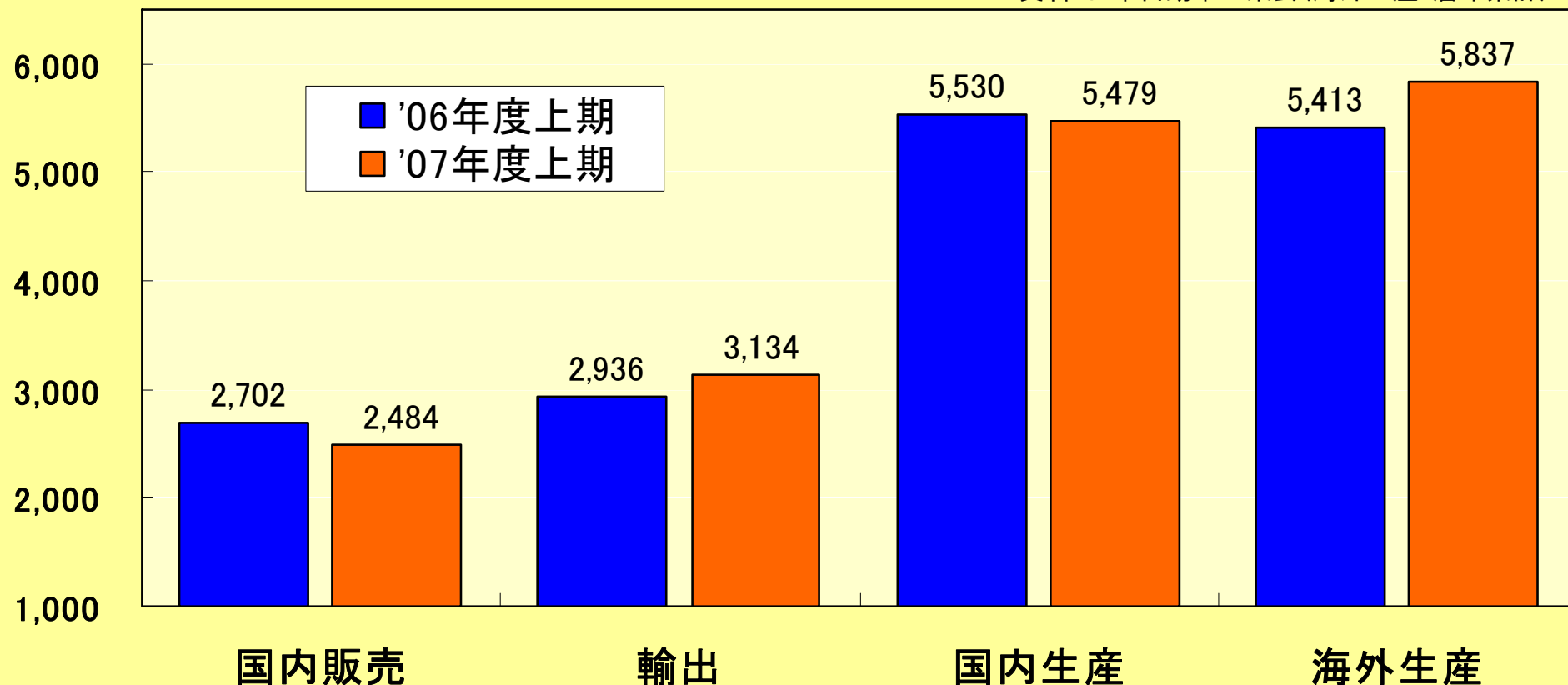
会社名		資本金	当社の 持株比率	主要な事業内容
国内	株式会社アクロス	25百万円	100%	自動車部品の製造・販売
	株式会社遠州クロム	10 //	100%	二輪部品のメッキ
	株式会社ウエストレイク	15 //	100%	容器洗浄及び物品販売
	富士協同運輸株式会社	10 //	61.5%	輸送事業
海外	ユニバンス INC. (米国)	19百万US\$	100%	自動車部品の製造・販売
	PT.ユニバンスインドネシア	6百万US\$	75%	同上

持分法適用会社 株式会社富士部品製作所 (持株比率 27.5%)

日系自動車メーカーの国内生産・販売・輸出、海外生産推移

(千台)

資料: 日本自動車工業会(海外生産: 暦年累計)



■国内生産: 4年ぶりに前年度実績マイナス(△0.9%)

・国内販売: 軽・小型車、トラックの需要減により減少(△8.1%)

・輸出: 欧州、新興国向けを中心に4年連続増加、19年ぶりの300万台超え(+6.7%)

■海外生産: 低燃費車の需要増と現地生産の拡大により過去最高の生産台数(+7.8%)



連結経営成績

単位:億円	'06年度 上期実績	'07年度 上期実績	前年度上期比較	
			増減額	増減比率
売上高	371.2	371.5	+0.3	+0.1%
営業利益	9.7	9.3	△0.3	△3.2%
経常利益	12.4	9.7	△2.6	△21.3%
当期純利益	7.6	4.2	△3.3	△44.3%
為替レート 円/ドル	115.57	120.49	+4.92	
ルピア/円	79.20	74.94	△4.26	

経常利益ベース：売上横ばい減益

- ・ 税制改正による償却費増、委託開発減

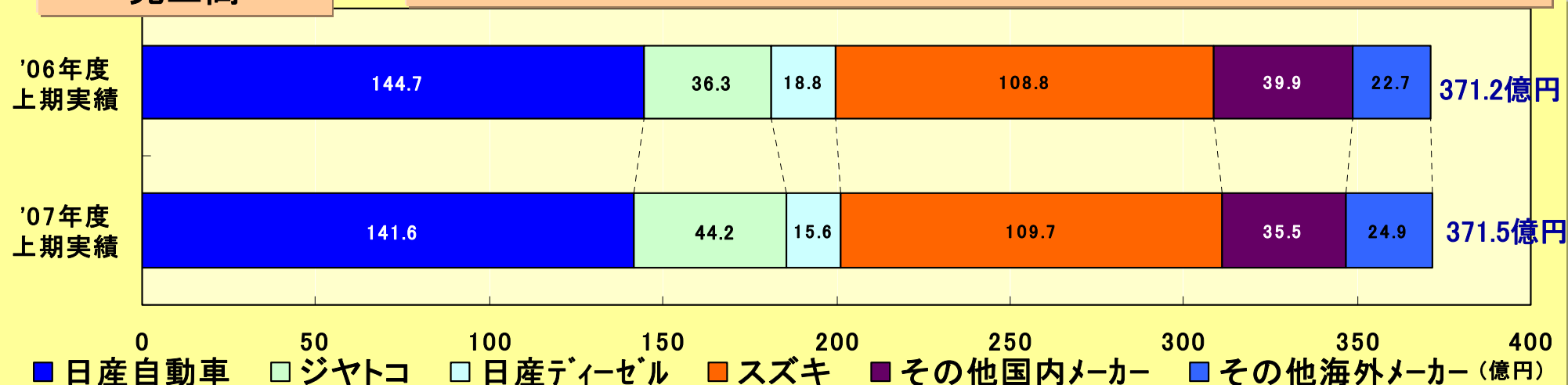
当期純利益ベース：売上横ばい減益

- ・ 子会社解散による特別損失

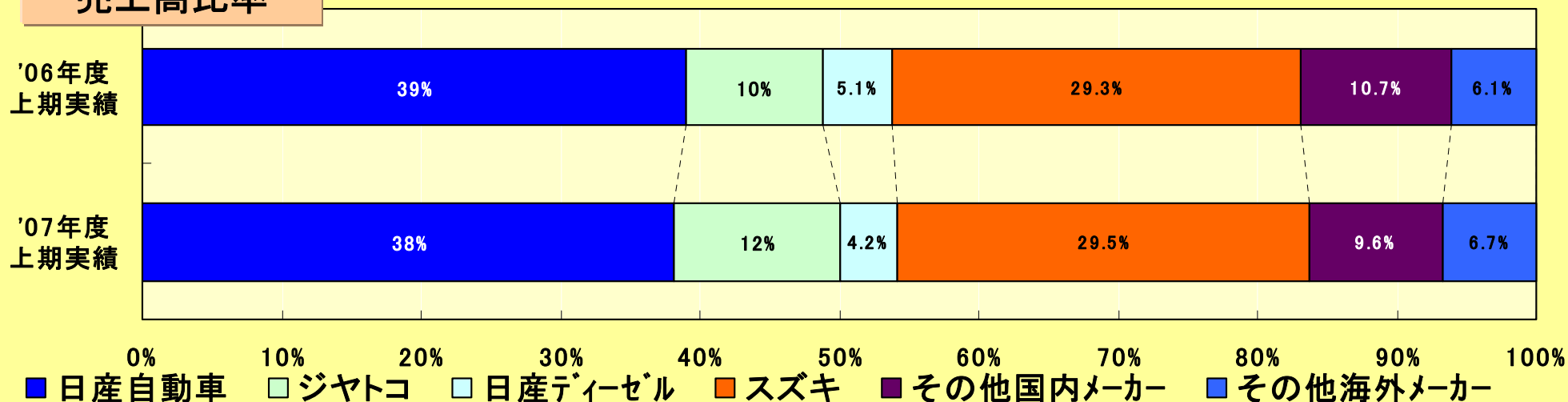
連結売上高(顧客別)

売上高

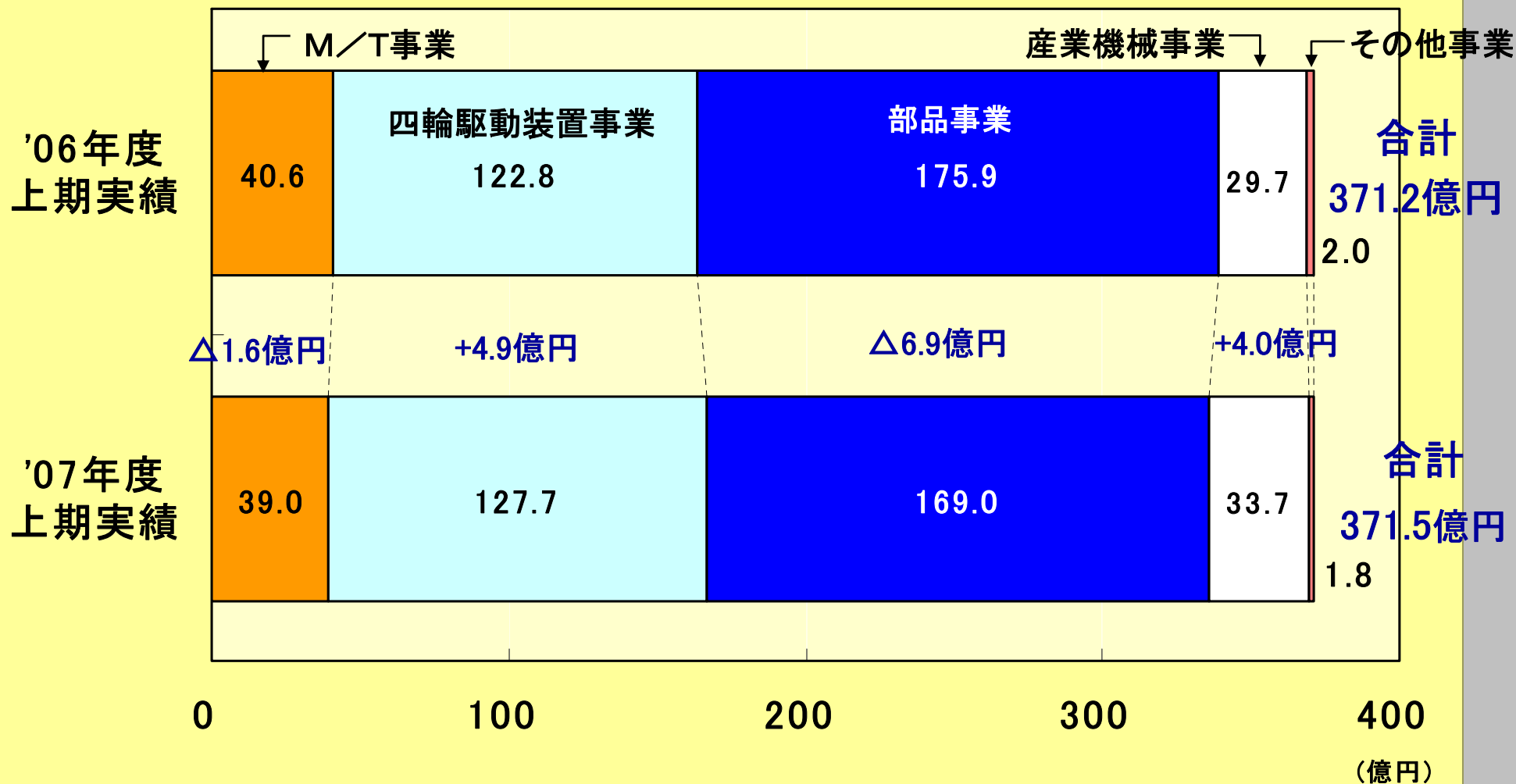
・ジヤトコ: +7.9億円 海外向け +2.1億円 ・減少: 日産: Δ 3.2億円 日産ディーゼル: Δ 3.1億円



売上高比率



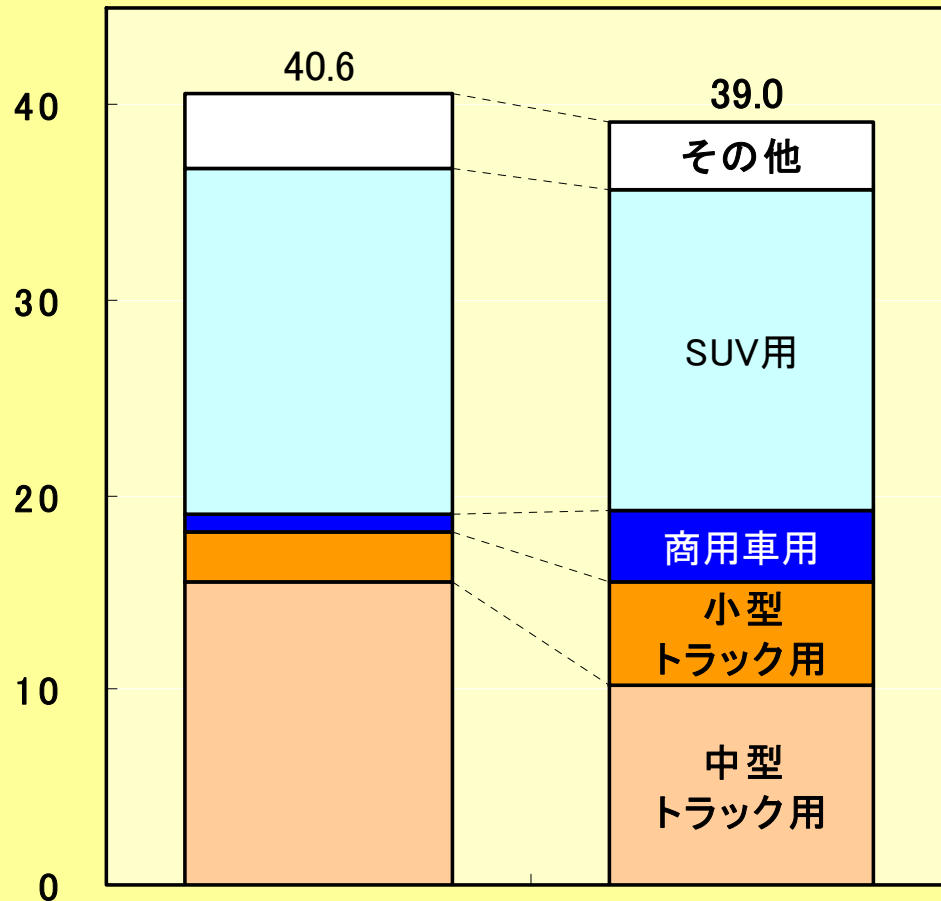
連結売上高(事業セグメント別)



連結売上高(M/T事業)

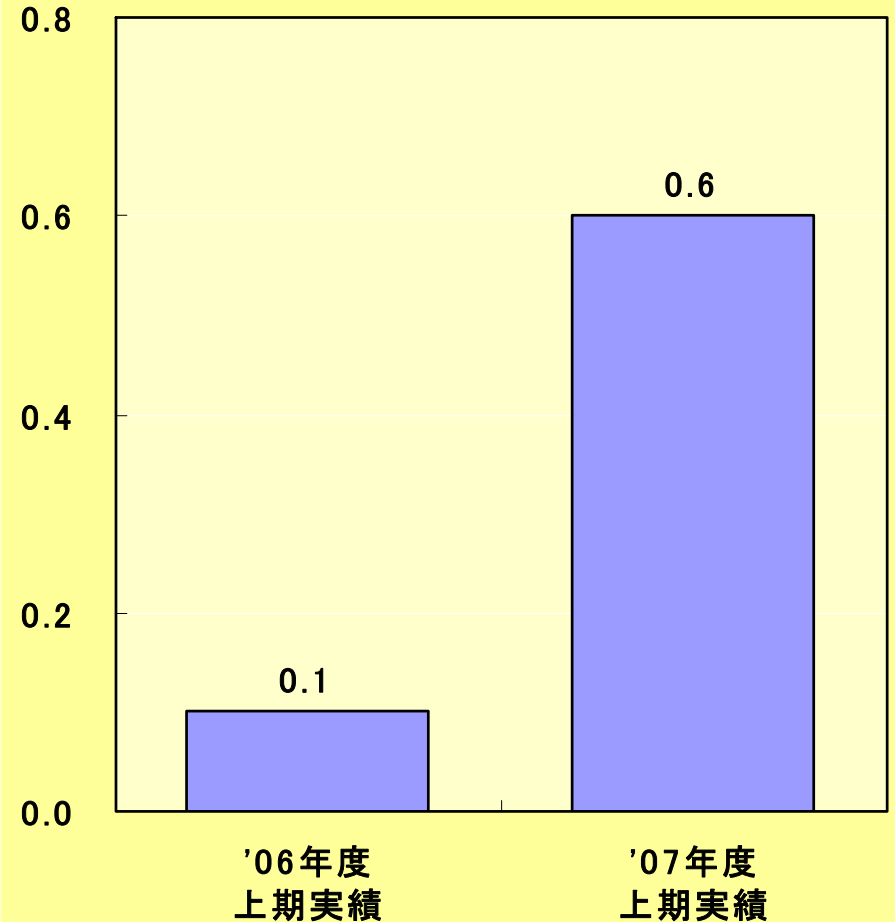
(億円)

売上高



(億円)

営業利益

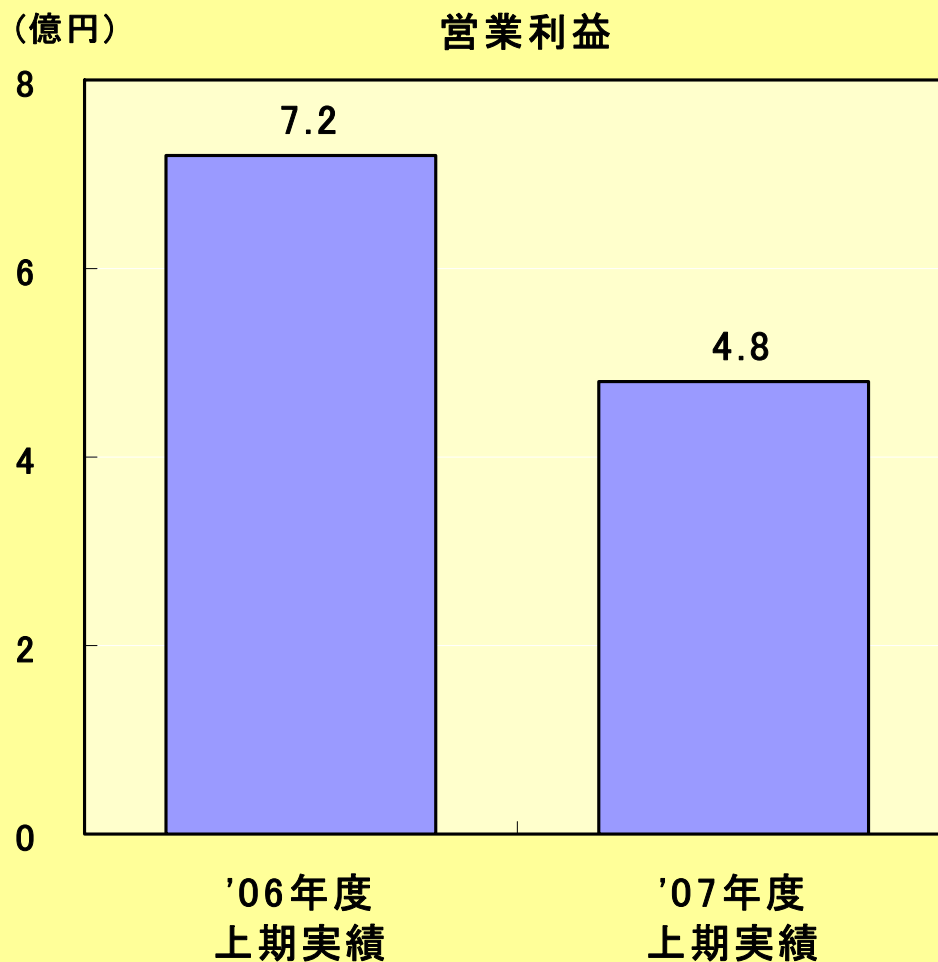
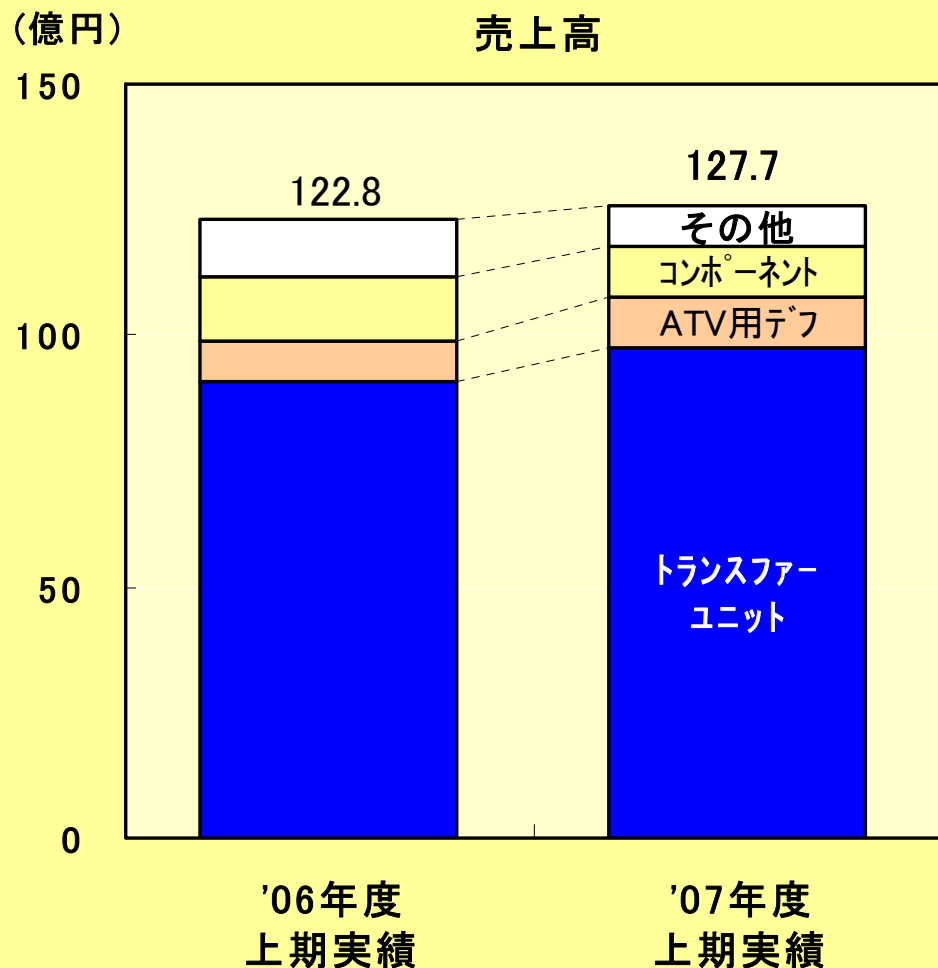


減収: 中型トラック需要減に伴う減少
(商用車、小型トラック用M/T増加)

増益: 合理化効果



連結売上高(四輪駆動装置事業)

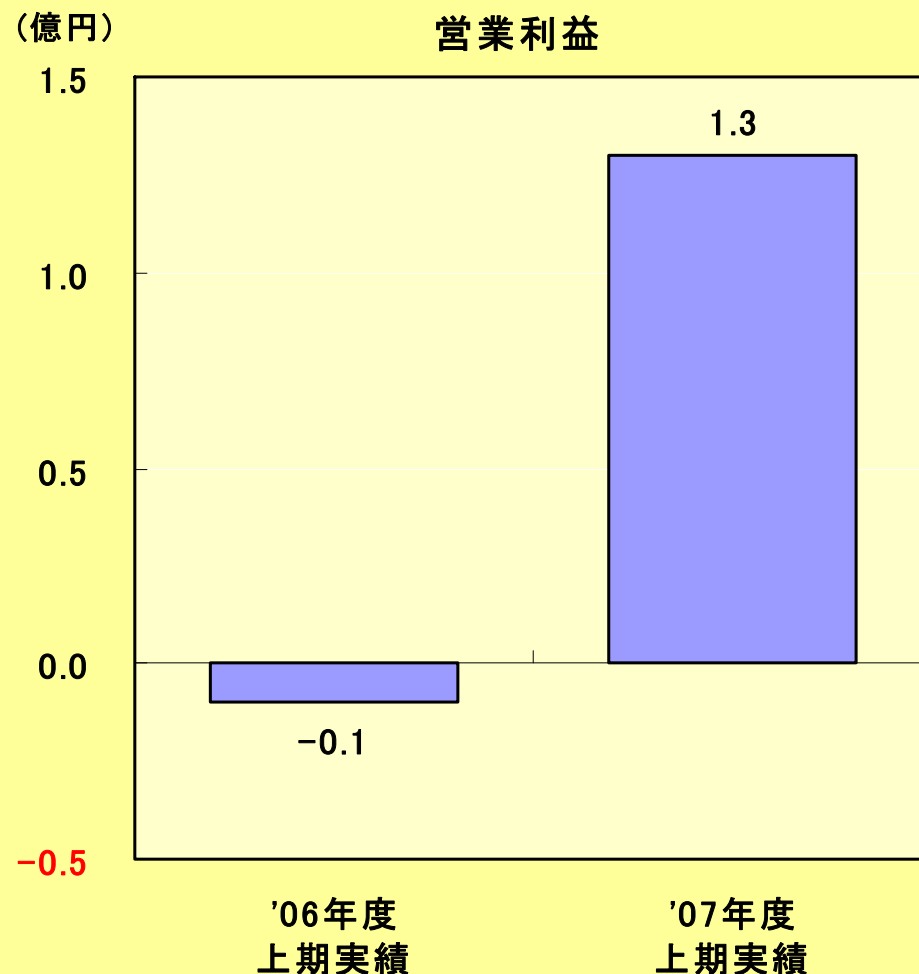
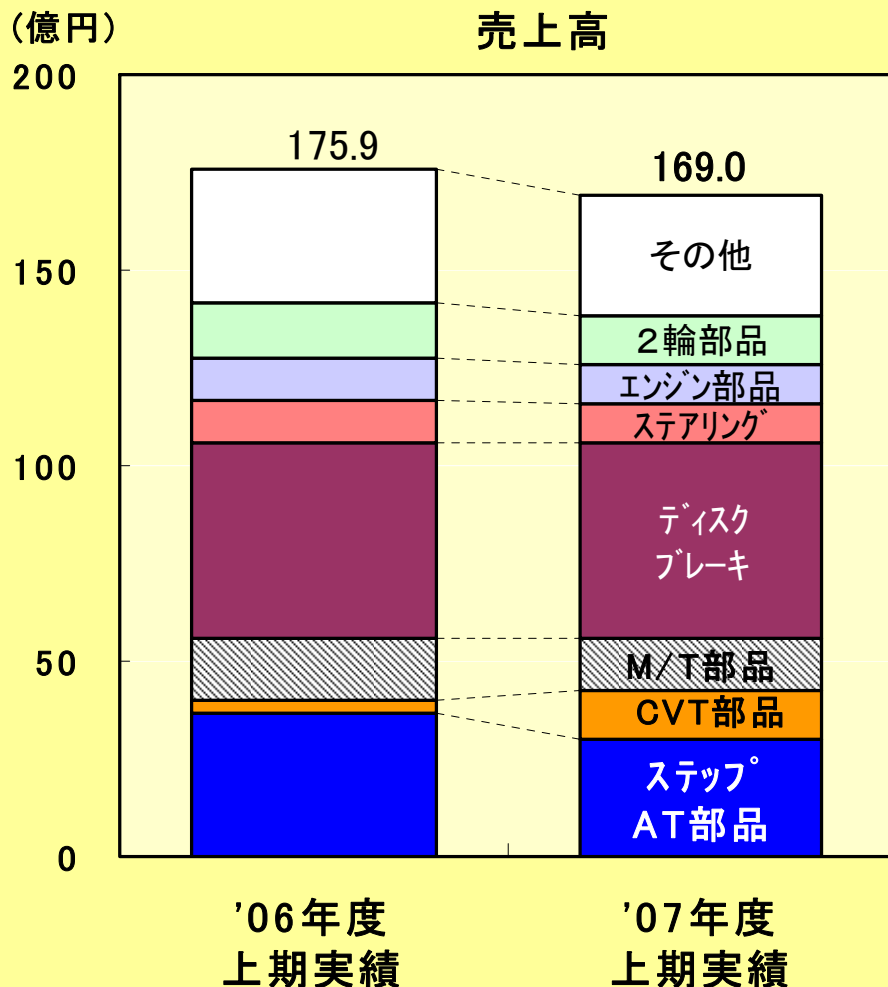


増収: 大型ピックアップトラック用T/F大幅減少、
中・小型用T/F増加

減益: 高付加価値製品減少、委託開発減少



連結売上高(部品事業)



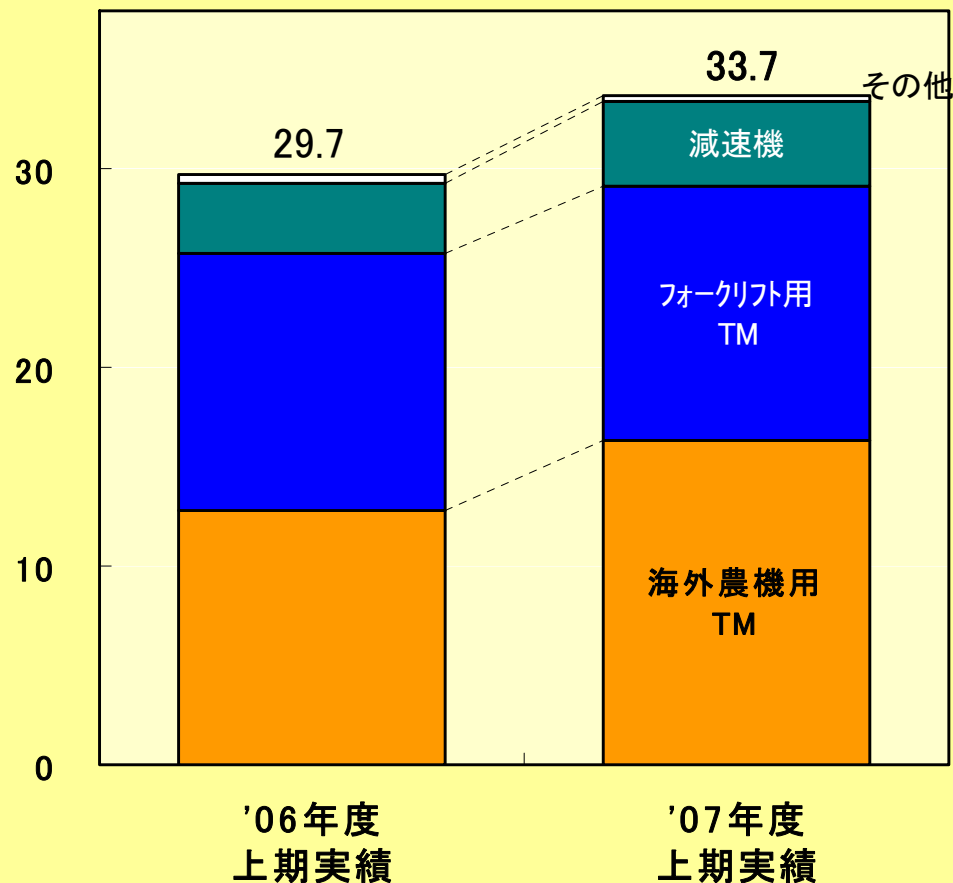
減収: ステップAT部品・M/T部品減少
(CVT部品増加)

増益: 主要製品の合理化効果

連結売上高(産業機械事業)

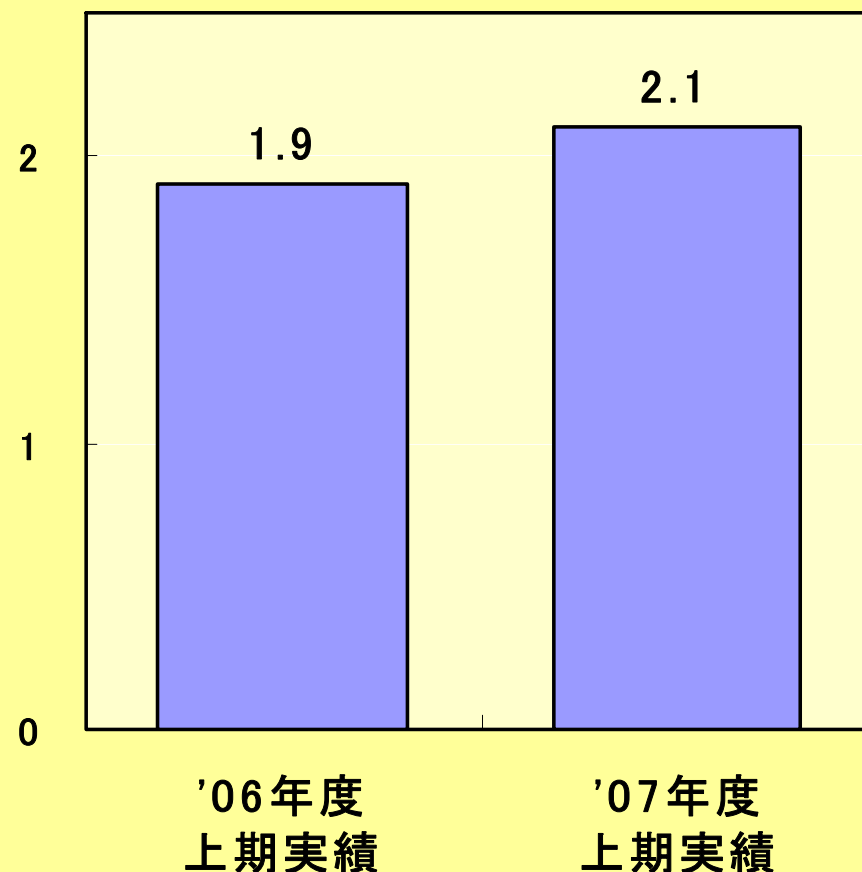
(億円)

売上高



(億円)

営業利益



増収: 米国向け大型農機用ユニット増加

増益: 増収効果

連結経常利益 損益分析

経常利益ベース （'06年度上期実績と'07年度上期実績の比較）

増益要因

操業度増 1.5億円

合理化 2.7億円
(材料費、労務費、経費)

合計 4.2億円

経常利益減 $\Delta 2.6$ 億円

減益要因

売価改訂 1.1億円

原材料値上げ 1.1億円

委託開発売上減 1.4億円

減価償却費増 3.2億円

合計 6.8億円

連結当期純利益 損益分析

当期純利益ベース（'06年度上期実績と'07年度上期実績の比較）

増益要因

税引前利益減少に伴う法人税等の減少
1.7億円

合計 1.7億円

当期純利益減 Δ 3.3億円

減益要因

経常利益減 2.6億円

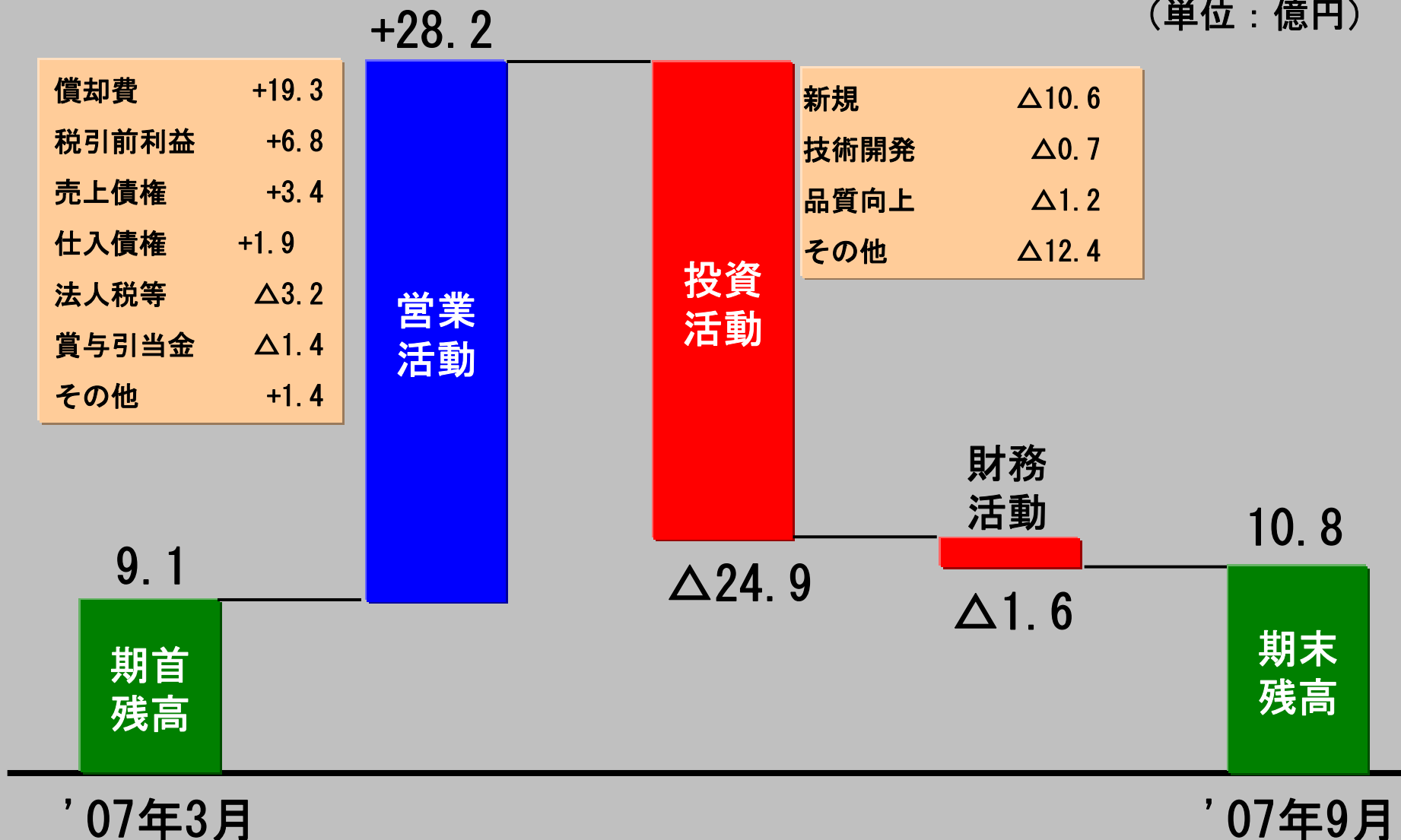
子会社解散費用 2.3億円

その他 0.1億円

合計 5.0億円

連結キャッシュフロー

(単位：億円)



Ⅱ. 2008年3月期業績予想と 中期経営目標達成に向けた活動状況

2008年3月期 連結通期業績予想

単位: 億円	'06年度 通期実績	'07年度 通期予想	前年度通期比較	
			増減額	増減率
売上高	754.5	780.0	25.5	3.4%
営業利益	15.6 2.1%	21.0 2.7%	5.4	34.6% 0.6%
経常利益	21.3 2.8%	22.0 2.8%	0.7	3.3% △0.0%
当期純利益	12.8 1.7%	11.5 1.5%	△ 1.3	△10.2% △0.2%

(下期予想為替レート ¥110/\$ Rp. 85/¥)

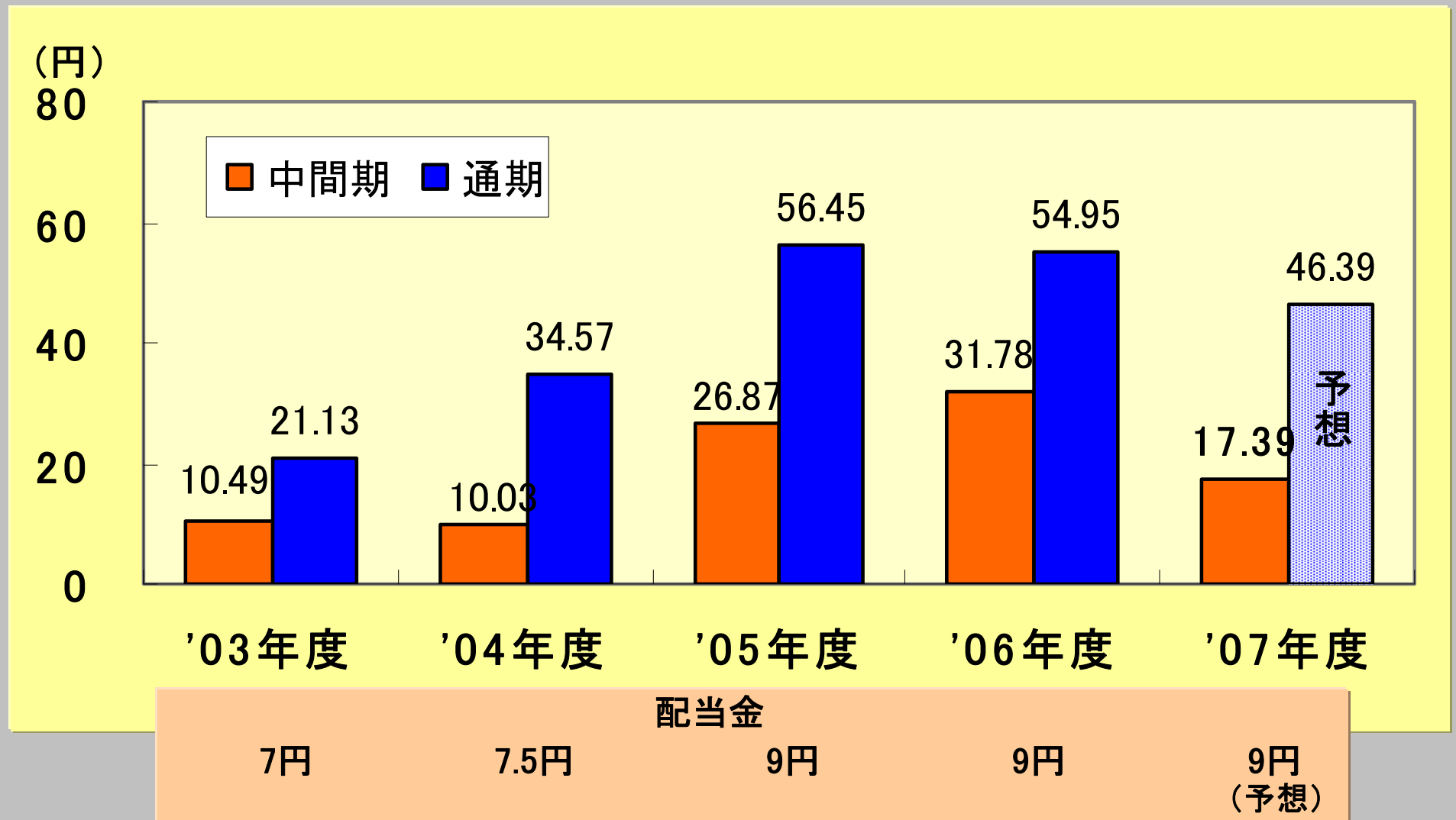
■ 経常利益ベース : 増収微増益

■ 当期純利益ベース : 増収減益

・ 子会社解散の特別損失(△ 3.8 億円)



1株当たり当期純利益・配当金推移(単体)



中期経営目標達成に向けて

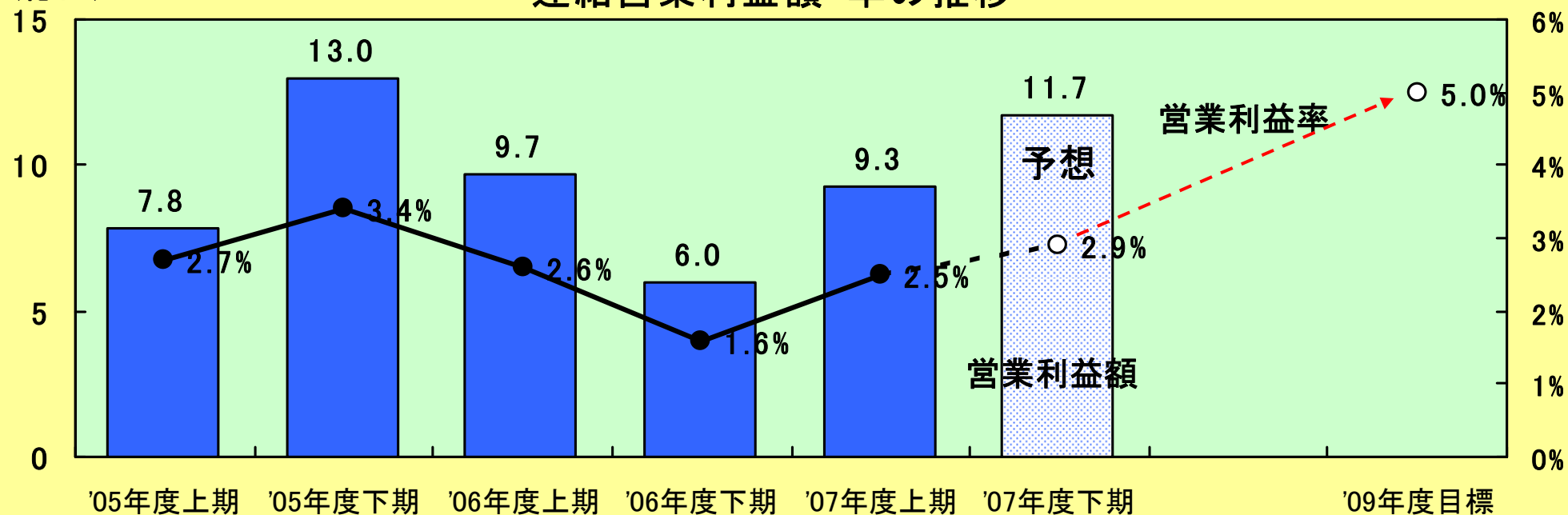
連結売上高推移

(単位:億円)

'05年度		'06年度		'07年度		➔	'09年度
上期	下期	上期	下期	上期	下期		通期 目標
294.8	383.2	371.2	383.3	371.5	408.5		800.0
678.0		754.5		予想 780.0			

(億円)

連結営業利益額・率の推移



2007年度重点施策 (1) 売上高拡大

2007年度の着実な売上拡大の主な内容

事業	売上拡大アイテム
M/T事業	<ul style="list-style-type: none">・日産アトラス用M/Tの新規立上り・日産キャラバン ガソリンエンジン用M/Tの拡大 (LCVを中心としたM/Tの拡大)
四輪駆動 装置事業	<ul style="list-style-type: none">・日産アトラス用T/Fの新規立上り・マツダ、日産タイ向けT/Fの拡大 (ピックアップトラックの生産・輸出拠点として今後も更に増加)・高級乗用車用T/Fの市場拡大
産業機械事業	<ul style="list-style-type: none">・新型フォークリフト(アグレス)用トランスミッション新規立上り・米国向け大型農機用T/Mの増加 (バイオ燃料用穀物需要の増加により販売数急増)

2007年度重点施策 (2) 収益力の向上

■重点製品の収益改善

■固定費削減

■選択と集中

- ・グループ全体の経営構造改革



子会社解散
(アクロス)

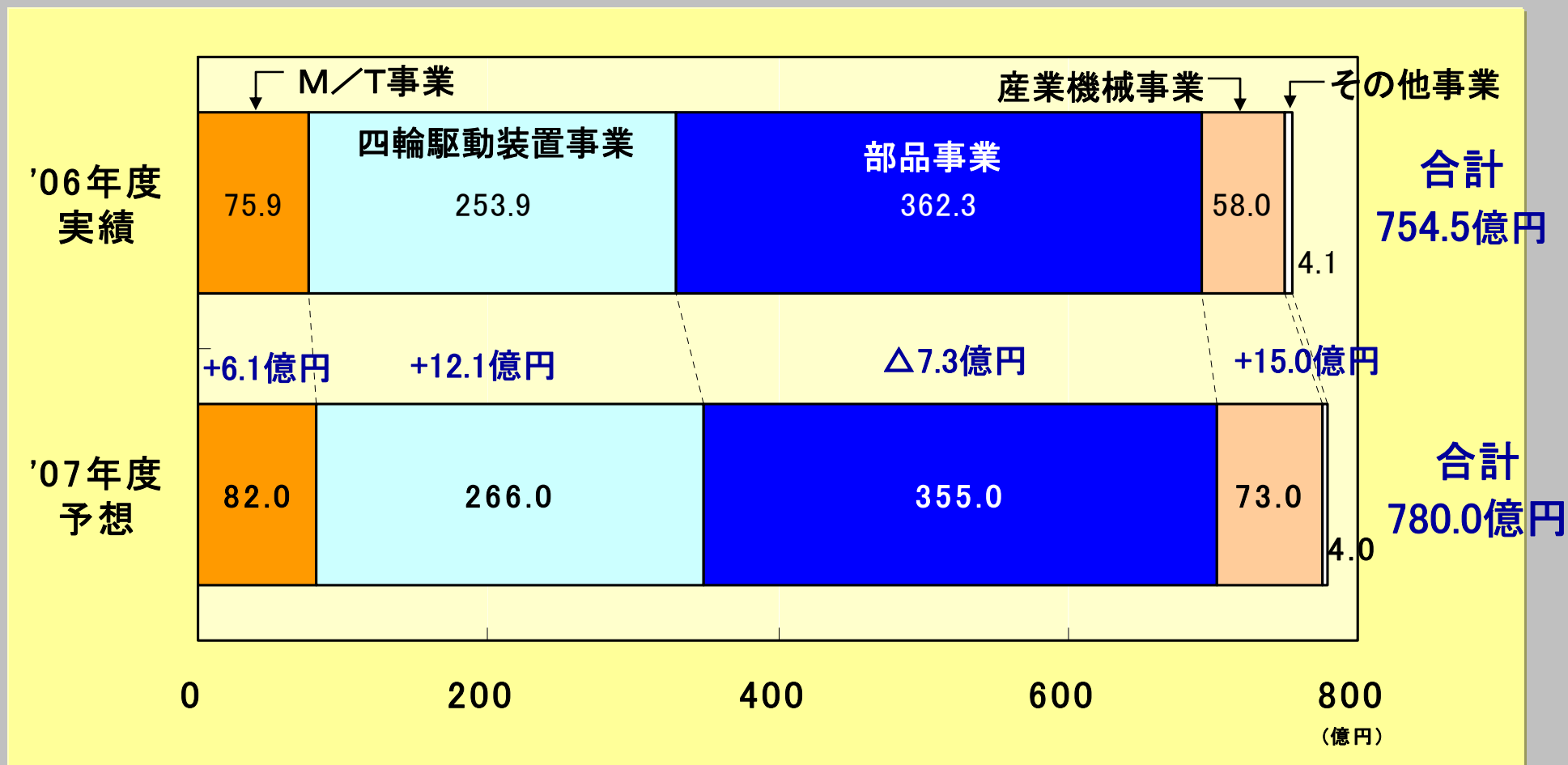
('07年9月発表、'08年9月清算終了予定)

- ・不採算製品からの撤退
- ・生産ラインの集約、統合
- ・所在地域における今後の労働力不足問題の早期回避

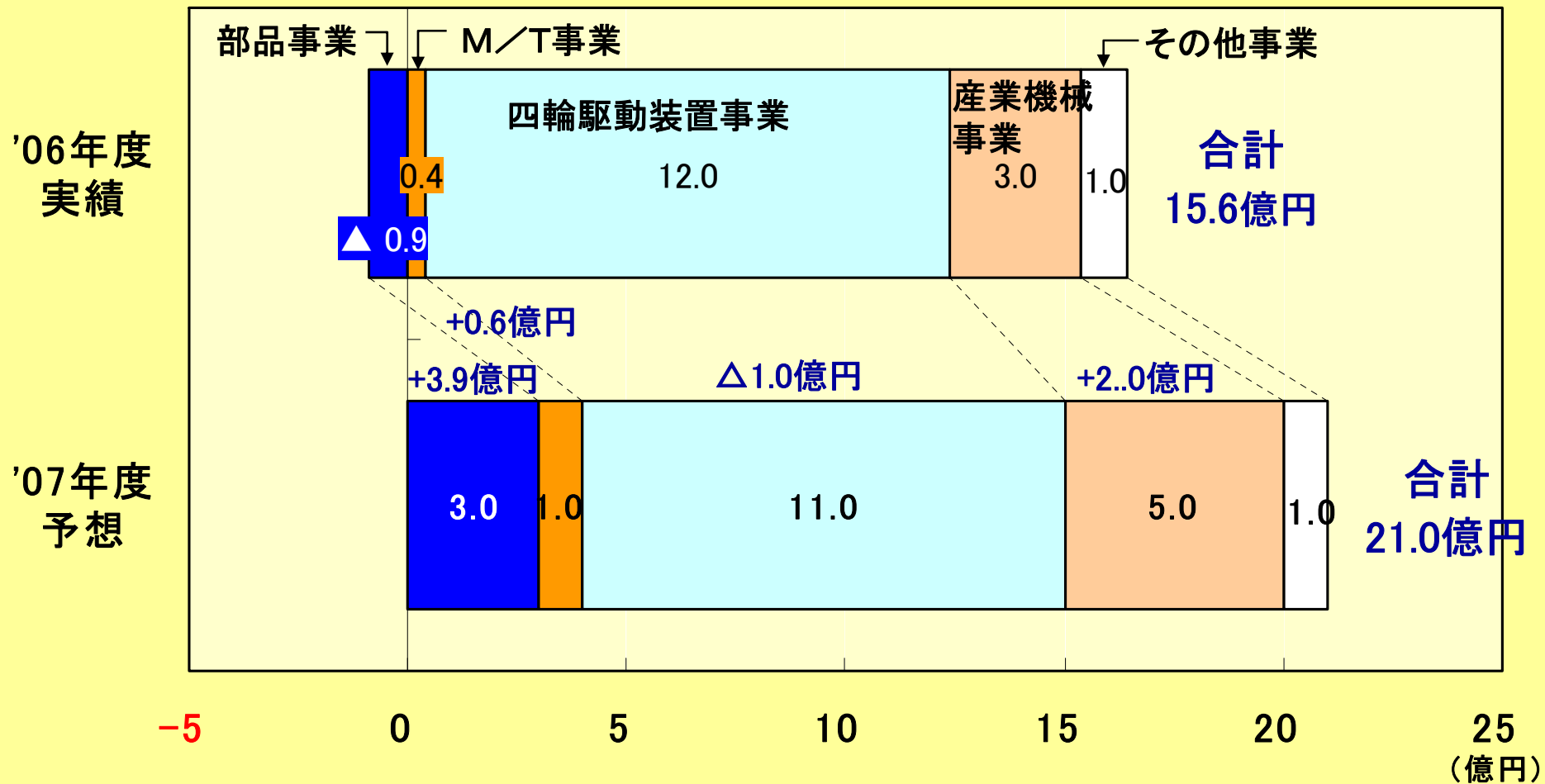


- ・生産効率・資本効率の向上

連結売上高(事業セグメント別) '07年度通期予想



連結営業利益(事業セグメント別) '07年度通期予想



今後の重点施策 (1)利益ある成長を目指した拡販

アジア地域を重点としたトランスファーユニットの拡販

- ・今後、SUV・ピックアップトラックの需要及び生産の拡大が見込まれるアジア地域でのトランスファーユニットの拡販
- ・車両サイズに適合したトランスファーユニットのシリーズ化による商品ラインナップの充実
- ・将来的には、ASEAN地域での生産拠点の整備を検討中。

今後の重点施策 (2)商品競争力強化

トランスファーユニットの競争力強化

■株式会社ミツバとの協業による商品開発体制の強化(株式持合い)

『機電一体化』の商品開発体制により、低コスト、軽量・コンパクトなトランスファーユニットの開発を実現する

ダントツ商品開発

■安全性重視 (ECU:電子制御化)

ミツバ(電子制御)

電気信号化 (By wire化)

■環境 (低燃費化)

軽量・コンパクト化
(モーター・ECU・ギヤボックス)

■グローバル化 (低価格化)

シリーズ化と生産量の拡大

ユニバース(機械装置)



UNIVANCE
Humanity and Technology
UNIVANCE CORPORATION

<http://www.uvc.co.jp/>

将来見通しに関する注意事項

業績見通し等の数値につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき、当社として判断した見通しであり、その正確性を保証するものではありません。また、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があることを、ご承知おき下さい。投資に際しての最終的な判断は、お客様ご自身がなされるようお願い致します。